［認知症対応型共同生活介護用］

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 8月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1070300650
法人名	（株） ファミリーケアーシステム
事業所名	グループホームケアホーム家族の家 境野
所在地	群馬県桐生市境野町 2丁目1459 （電 話）0277－43－3399

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町 2－29－5 コミューン100 1－B
訪問調査日	平成 19年 7月 25日

【情報提供票より】（ 年 月 日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 1月 1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人
職員数	13 人	常勤兼務 11 人，非常勤 2 人，常勤換算 6．5

（2）建物概要

建物構造	木造モルタル 造り
	2 階建ての 1 階 ～ 2 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	39,000～45,000 円		その他の経費（月額）	光熱費（一日）500 円
敷 金	有（ 円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ 円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

（4）利用者の概要（ 月 日現在）

利用者人数		9 名	男性	2 名	女性 7 名
要介護1		名	要介護2	1 名	
要介護3		3 名	要介護4	4 名	
要介護5		1 名	要支援2	0 名	
年齢	平均	83.6 歳	最低	72 歳	最高 95 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	藤井内科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自立支援の中でも特に排泄ケアに重点を置き、こだわりとも言える「オムツ外し」を実践し、尊厳を支えるケアの一貫として現在はオムツ使用者がいない。小規模多機能型居宅介護事業の併設を含め地域等との連携が良好であり、地域での存在が認知されている事から介護問題等での相談・依頼がある。理念の内容が具体的に確立されており、利用者が日々安心した生活が最期まで送れるようにと、スタッフを通して理念に基づいた質の高いケアを目指している姿勢が伺える。これらは評価に値するものであり、今後も継続されることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

・運営理念の啓発＝ホームの役割や運営理念を地域にも理解してもらう事で、ホームが地域における認知症介護の拠点になる事を期待したい。（前回の評価）
⇒「私たちは、ご利用者のありのままを受け入れます」等々を理念として掲げ、毎日の買い物や散歩等又、地域の行事や活動等に参加する事で日常的に地域住民との交流が図られ、認知症の人への理解が深められている。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

評価の意義を理解しており、1回／月 開催の全体会議で評価についての勉強会を実施している。評価結果で出来ていない箇所については、確認を行い業務の見直しを話し合う等、改善策への取り組みが行われている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議の委員メンバーは依頼済みではあるが、各委員の会議開催日程の調整がつかない事から、会議が一度も開催されていない現状である。会議開催の初日は顔合わせ等も含め委員メンバーの全員出席が望まれるが、制度的な観点からも現状を踏まえた上で、早急に会議開催の実現を期待したい。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

1回／月ホーム便り（ひだまり）の発行及び利用料の支払い時に家族等へ利用者の日常の様子を伝えている。又、家族等の訪問時には、意見・苦情等が言い易いような雰囲気づくりに心掛け、出された事柄については、担当者や会議等で確認を行い、運営に反映させている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

自治会に加入しており、夏祭り・文化祭等の行事に参加したり、町内清掃・ゴミ当番等、地域活動にも参加する事で、日常的に地域との連携が図られている。

2. 調 査 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	パンフレットに「住みなれた家で　地域で　さいごまで…」と掲載されており、ありのままを受け入れ、あたりまえの生活が送れるよう、ターミナルを念頭に日々取り組んでいる。	○	その人らしい生活の更なる実践を深めて行きたいとの事。地域の中で利用者一人ひとりが、理念に基づいた生活を最後まで送れるよう、個別のより具体的な支援策を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所等に掲示してあり、2回／月開催の職員会議及びカンファレンス時に確認を行っている。又、随時話し合いの機会を設ける等で理念の共有・実践に向けて取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、夏祭り・文化祭等の行事に参加したり、町内清掃・ゴミ当番等、地域活動にも参加している。又、町内会開催のバザー用品（残り物）を持って来て頂く等、日常的に地域住民との交流が図られている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解しており、1回／月開催の全体会議で評価についての勉強会を実施している。又、評価結果については出来ている所・出来ていない所の確認を行い、業務の見直しを話し合う等、改善策への取り組みが行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「運営推進会議」の委員メンバーは依頼済みで確定はしているが、各委員（名士が多）の会議開催日程が合わない事から、未だ「運営推進会議」は一度も開催されていない。	○	会議開催初日は、顔合わせ等も含め委員メンバーの全員出席が望まれるが、制度的な観点からも現状を踏まえた上での検討により、可能な限りの出席依頼の働きかけを行い、早急に会議開催の実現を期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の申請・更新時等を中心に情報交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。又、市議会の保険・福祉部会の視察等、日常的に受け入れている。{小規模多機能型サービス開始時に議員（11名）の見学あり}		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1回／月ホーム便り（ひだまり）の発行及び利用料の支払い時に利用者の日常の様子を報告している。又、健康状態や問題等が発生した際は電話連絡を行っている。ホーム便りの内容が家族に理解し易いよう写真の連載が主となる為、各家族から口頭により同意を得ている。		プライバシー保護の観点から、家族等からの同意は口頭のみではなく、リスク管理の視点からも文章化（同意書等）することがより望ましい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の訪問時には、意見・苦情等が言い易いような雰囲気づくりに心がけている。又、1回／月の利用料支払い時（持参が原則）には家族から意見・要望等を聞き、出された事柄については担当者や会議等で確認し運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規事業（小規模多機能型居宅介護事業所）の立ち上げにより職員が異動した経緯はあるが、利用者それぞれに担当職員を決めており、異動時には速やかに新担当者に引き継ぐ等で利用者のダメージへの配慮が行われている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に（1回／月）内部研修を開催している。研修内容については、職員からの希望を募り代表者が行っている。前回は[ターミナルケアの勉強会]を実施。その他県主催の研修等、外部研修にも積極的に参加出来るよう心がけている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に入会しており、レベルアップ研修や支部活動等を通して交流を図り、サービスの質向上への取り組みが行われている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設の小規模多機能型居宅介護事業所利用者からの希望が多く、職員も兼務である事から日頃より馴染みの関係性が保たれているが、入所希望時には、家族との話し合いや本人と面談を行う等、相互で安心感が持てるように努めている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と生活を共に過ごすと言う観点から、日常的に買い物・食事づくり等を通して人生の先輩として接し、支え合いの関係づくりに努めている。冷蔵庫内の食材を見て献立や調理方法のヒントを頂き、教わりながら一緒に食事づくりをしている。		手伝いのお願いをする時等、利用者の感情に対する対応にばらつきがあるので、全職員が同様の関係を築いて行けるよう一層努力したいとの事。
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント表（センター方式）の活用により、コミュニケーションの困難な人への思いや真意を探り、利用者各自の立場に立って考えた利用者本位に向けての検討を行っている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	職員が担当制になっており、日常生活や利用者との1対1の対話の中から希望を見出し、家族からは面会時に要望等を聞き、話し合いの上介護計画を作成している。管理者が介護支援専門員との兼務等の状況もあり、介護計画書の説明・同意欄に家族等の確認のサインが実施されていない。	○	利用者等からの把握に基づた介護計画を作成し、各家族等に介護計画の説明を行い、同意を得た上でのケアの実践が原則である事から、同意のサインが必須である。又、利用者及び家族からの希望等が［本人・家族の希望欄］に記載されていないため、リスク管理の観点からもサイン確認・記録の実施を期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には、1回／3ヶ月の見直しを担当職員と確認の上行っている。又、ホーム独自（対応帳）の活用により、変化が生じた場合等は現状に即した随時の見直しも行なわれている		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣の高齢者等が利用又、ターミナルケアに向け「指定介護予防認知症対応型共同生活介護」「医療連携体制加算」の指定を受け、小規模多機能型居宅介護事業も併設する等、多機能性を生かした支援体制が整えられている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1名は以前からのかかりつけ医による1回／週の往診があり、その他（8名）については、近隣の協力医療機関の医師による1回／月の往診が行われている。又、急変・緊急時は随時の往診等が可能であり医療機関との連携が図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族と終末期等についての話し合いを行い希望者が5名いる。ターミナルケア（看取り）についてのマニュアルがあり、勉強会を行う等職員間の共通認識やかかりつけ医との連携も図られている。家族等からはターミナルケア（看取り）についての同意書が作成されている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はプライバシー保護や個人情報保護法を理解しており、利用者の人格の尊重・記録の持ち出し禁止等、配慮しつつ支援を行っている。しかし、構造上等の面から食堂のテーブルを活用し、利用者の目前で申し送りをしていることから気がかりの現状である。	○	申し送り時には個人名が利用者に聞こえないように配慮はしているが、小声であると逆に「何を話しているのだろう…」と不安を招く事もある。このような事から、双方が安心して申し送りが出来るよう場所を検討して行きたいとのこと。申し送り内容で利用者のプライバシーに触れざるを得ない部分もある事から、申し送り場所の確保を期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活が、その人らしく送れるように希望を第一と考え、食事づくり等利用者のペースに合わせた支援が行われていた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量を考慮し、職員が一緒に買い物・調理・後片付け等トータル的に行っている。又、食事は職員が各テーブルに同席し、会話を楽しみながらの支援が行われていた。	○	食事の準備及び調理の部分での清潔面の確保について検討中であるとの事。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日等は設定しておらず、夕方（16：30～）及び夕食後（20：00～）入浴を毎日実施している。希望により、毎日の入浴者が2名・基本的にはほぼ1日おきに入浴をしており、実施状況がチェック表に記載されている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活暦や状況に応じて食事づくり・清掃・洗濯物たたみ等、出来そうな事は楽しみながら日常的に行えるよう支援している。毎日の晩酌を楽しみごとにしている利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物やウインドウショッピング等、定期的に出かけている。又、近隣公園の池の鯉にパンくずをあげる・飼い犬の散歩等、戸外へ出かける支援が日常的に行われている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることへの弊害を理解しており、玄関のみを夜21：00～翌朝6：00迄の時間帯に施錠している。鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2回／年消防署が立会いの下、全員で避難訓練を実施しており、マニュアルに添った研修等も行われている。又、2回／月程度外出時に避難訓練を兼ねて外迄の誘導を行う等の取り組みがなされている。近隣の協力体制については、区長を通じてお願いしている。	○	緊急連絡網は確認されているが、避難訓練等の実践が行われていない。リスク管理の観点から、災害対策は重要であり近隣との協力体制を含め、マニュアル等に基づき最低1回／年の避難訓練の実施を期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック・水分チェック表等の活用により、個々の栄養バランスを把握しており、嗜好品や食事形態等の配慮の上、健康面への支援が行われている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	既存の木造住宅の改修により、要所に木の温もりや家庭的な雰囲気が感じられる。又、台所や浴室等が家庭そのものである事から、自然と親しみが湧く構造であり、居心地よく過ごすための配慮が醸しだされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具等は、利用者や家族と相談を行い、使い慣れた馴染みの物を持参していただくようにしている。居室には馴染みの箪笥・テーブル、椅子・写真等が持ち込まれ、各自が安心して過ごせるような配慮がなされていた。	○	一人ひとりの空間づくりへの工夫をより深めて行きたいとの事。